

ジョン・メイスフィールド

## 1 ボールス卿のバラッド

穏やかな休息と 少しの安らぎが欲しいものだ  
しんと静まり涼しい黄昏時 木々の生い茂ったほの暗いところ  
鳥たちがあちこちでうたい出し しまいには大合唱となる  
うたうのは海の向こうに咲く 赤い赤い薔薇の歌

その薔薇を一目でも拝みたいものだ 太陽の光が次第に和らぎ 5  
ぼつんと一つ西の空の白い星の輝きを 甲冑が微かに返す頃  
キリストの聖なる血から 赤い赤い哀しみの薔薇が咲く  
輝く神の聖杯の中に 円卓の騎士が探す聖杯の中に

黄昏が暗がりをかき集め 暗闇が西の空を支配する  
雄牛がモーと鳴いて牛舎へ向かい 鐘という鐘が休息の時を告げる 10  
だが俺は馬に乗り沼地を越えて行く まだ空に黄昏の気配が残っているから  
俺の魂は囚われている 聖杯を求める旅の終わりを告げるあの薔薇の輝きに

馬の足は腫れ 肉は削げ落ち 骨が浮き出てしまっている  
剣は錆び付いてボロボロだ だが俺は手綱を取り進みゆくのだ  
あの薔薇に棲ま<sup>す</sup>う白く輝く神の鳥たちが呼んでいるから 15  
今はどの町にも 俺が留まる場所はない

ついにはその日が来るだろう 黄昏時 馬が丘をよるめき下ると  
星が一つ光を放つ 神が打つ銀の鐘の調べのように  
そして白く輝く神の鳥たちが 俺の魂をキリストの元に導いてくれる  
あの薔薇を あの薔薇を一目見て 長い地獄の日々が報われる時が来るだろう 20

(三木菜緒美訳)